

回覧

本埜中学校区にお住まいの皆様

本埜中学校の現状等に係る意見交換会の開催結果について（お知らせ）

令和5年2月発行
印西市教育委員会 教育部 学務課

令和4年12月21日（水）午後7時から、本埜中学校において、本埜小学校の児童及び本埜中学校の生徒の保護者並びに本埜中学校区の児童及び生徒の保護者の皆様を対象として、教育委員会主催により本埜中学校の現状等に係る意見交換会を開催したところ、11名の保護者の皆様にご参加いただき、様々なご意見等をいただいたところでございます。

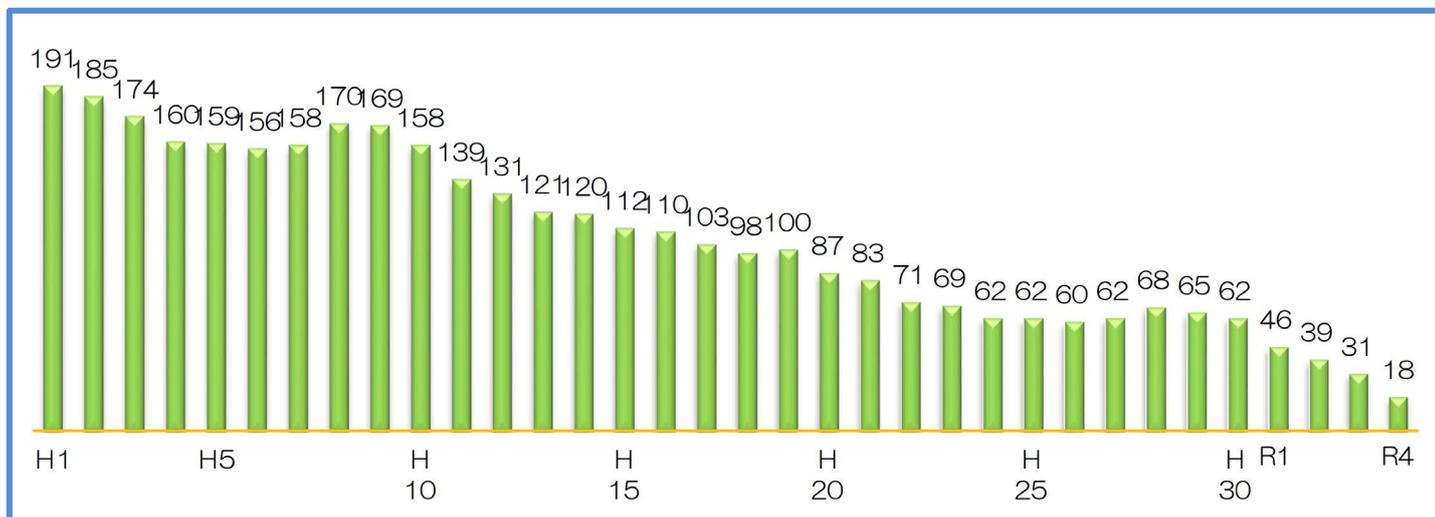
つきましては、意見交換会の概要をまとめましたので、本埜中学校区にお住まいの皆様にお知らせいたします。

なお、この「お知らせ」については、関係する保護者の皆様に配付しております。

■本埜中学校の現状等について■

1 本埜中学校の現状について

（1）生徒数の推移



（2）学級数の推移

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
通常学級数	3	3	3	3	3	3	3	2
特別支援学級数	2	2	2	1	1	2	2	2
計	5	5	5	4	4	5	5	4

※各年5月1日現在

(3) 教職員の推移（県職員）

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
教職員数	14	14	14	12	12	13	14	12

※各年5月1日現在

※担任をしている講師は含み、休職・長期研修者は除く

(4) 令和4年度の生徒数及び学級数

	1年	2年	3年	合計
生徒数	0	8 (1)	8 (1)	16 (2)
学級数	0	1	1	2 (2)

※令和4年5月1日現在

※（ ）の数字は、特別支援学級の生徒数及び学級数

(5) 令和5年度の生徒数及び学級数（見込み）

	1年	2年	3年	合計
生徒数	6 (2)	0	9 (2)	15 (4)
学級数	1	0	1	2 (2)

※学級編制における事前調査結果及び小規模特認校制度の利用者数を基に算出

※（ ）の数字は、特別支援学級の生徒数及び学級数

(6) 令和4年度の教職員数

校長	教頭	教諭	養護	事務	合計
1	1	8	1	1	12

※令和4年5月1日現在

(7) 令和4年度の部活動の状況（令和4年6月1日現在）

部活名	加入者数	部活名	加入者数
陸上（男子）	2	陸上（女子）	1
野球	10	生物	3

(8) 小規模特認校制度の利用者数

	R4	R5（予定）
1年	0	1
2年	1	0
3年	1	2
計	2	3

※令和4年12月1日現在

(9) 今後の生徒数の推移

	R6	R7	R8	R9	R10
1年	12	18	15	11	12
2年	8	12	18	15	11
3年	0	8	12	18	15
計	20	38	45	44	38

※各年度の入学予定生徒数については、本埜小学校の児童数（令和4年5月1日現在）を基に算出
 ※学区外就学、私立学校等への就学は考慮していない

(参考) 令和4年度の本埜小学校の児童数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	12	11	15	18	12	16	84

※令和4年5月1日現在

※特別支援学級を含む

(10) 学区外就学の状況

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
本埜中学校の生徒数 (a)	65	62	46	39	31	18
他校に学区外就学している生徒数 (b)	12	8	13	22	35	42
学区外就学している生徒の割合 (b) / (a+b)	15.6%	11.4%	22.0%	36.1%	53.0%	70.0%

※各年5月1日現在

※各年度の生徒数には特別支援学級を含む

2 意見交換会での主な質疑応答等

今回の意見交換会において、参加された保護者の皆様からいただきました主な質疑やご意見等は次のとおりです。

なお、当日、回答ができなかった質問等については、追加回答及び補足事項（赤字）として、記載いたします。

主な質疑応答等（要約）

質問 今日の意見交換会の趣旨としては、人数の減少に伴って、学校の存続が厳しいので、小規模特認校制度を廃止して、本埜中学校を閉校にしたいということなのか。

回答 今回の意見交換会の目的としては、来年度の小規模特認校の申請期限が過ぎ、小規模特認校制度の利用者を含めて、来年度の入学予定者数がほぼ確定したということから、そのご報告と、保護者の皆様と課題等を共有させていただきたいと考え、意見交換会を開催させていただいた。

質問 来年度以降、本埜中学校を閉校に持っていくという考えではないということよろしいか。

回答 閉校の考えではないが、令和5年度の生徒数を見ると、中学校として、教育指導面で大変厳しい状況となっている。

将来、もし全校で特別支援学級を含めて2学級になる場合には、千葉県の職員配置の基準により、養護教諭と事務職員が配置されなくなってしまう状況になるため、学校運営面等を考慮すると、学校の存続がかなり厳しい状況になってしまうことを、保護者の皆様と共有させていただきたいと考えている。

意見 現状として、人数が非常に少なくなって、学級数も減少していることは、保護者だけでなく、地域全体の誰もがわかっていることだと思う。

質問 現状で、学区外から本埜中学校に通学している子供達も数名いるが、学区外から来ている子供達が、実際、本埜中学校に来て、どのようになったか、教育委員会をご存知か。

回答 学区外のお子様の中には、電車とバスを乗り継いで、非常に明るく、元気に本埜中学校に通学している生徒がいるという話は聞いている。

質問 その子供は、元気に明るく通っているが、今までいた学校から、本埜中学校に転校してきて、どうなったかまで、ご存知か。

回答 始めは、挨拶をしても全然挨拶をしてくれなかったが、何度か挨拶をしていくうちに徐々に大きな声で挨拶をしてくれるようになり、最近は、挨拶をすると、現状を話してくれるようになってきたという話は聞いている。

質問 自分の子供や周りの人から、その子供は本埜中学校に来て、人が変わったような子供になったと聞いている。

大きい学校だと少し厳しいが、小さい学校であれば、今まで不登校だった子供が、人が変わったように、毎日学校に来るようになってるのが、現実である。

もし、小規模特認校である本埜中学校がなくなってしまうと、そういう子供達の受け皿は、どうなるのか。

また、千葉県で不登校の子供達の受け皿をしっかりと考えていこうという議題が上がっていると思うが、その辺も合わせて、教育委員会としての考えを教えてください。

回答 不登校のお子様については、全く学校に行けないお子様もいれば、何とか学校に行って、保健室で学習をしているお子様もいるなど、色々な状況がある。

一つの対応としては、市では、不登校で学校に行けないお子様を支援していく、緑のまきばという教室があるので、そこで、学校生活に戻れるような支援を受け、様々な学びをしていくことになっている。

不登校のお子様の受け皿となるような取り組みについては、全国で不登校特例校というものがあるが、千葉県内にはない状況であるため、色々な取り組みの状況を調査し、印西市で導入できるかどうか検討していきたいと考えている。

質問 令和5年度から正式に本埜中学校が小規模特認校になることは、間違いないのか。

回答 間違いない。

質問 小規模特認校制度とか、本埜中学校の存続だったり、廃校だったりという話があるのかもしれないが、自分の意見としては、子供を本埜中学校に通わせたいとは思わない。

自分の中学校の思い出は、部活でも勉強でも、たくさんの仲間がいて、たくさんの友達がいて、成り立つと思っている。

教育委員会の方は教育のスペシャリストだと思うので、最適な教育や最適な環境がどういうものかということを考えていただけるとありがたいと思う。

小規模特認校が良いとか悪いとか、本埜中学校の存続や廃校に意見はないが、本埜中学校に子供を通わせたくないという思いはある。

回答 子供達は、学校での教育活動の中で、色々な人達と関わり、部活動や様々な行事を通して、色々な価値観を学んでいながら、成長していくと考えている。
教育委員会としても、ある程度の人数がいる最適な環境となるよう、考えていきたいと思う。

意見 教育委員会から小規模校の厳しい状況の話があったが、大規模と小規模の両方経験している親の意見として、親と子供の直接の声を聞いていないと感じた。

具体的には、運動会の面を挙げていたが、本埜小学校に行ったときに、運動会はこんなに楽しかったのだと思った。

大規模校では、自分の子供がどこにいるかもわからず、見るのも大変で、待ち時間もものすごく長くて、正直苦痛だったが、親も、おじいちゃん、おばあちゃんも含めて、みんなで楽しめる、みんなで応援するといった、小規模校である本埜小学校の運動会はとても素晴らしいと思ったし、団体競技ができないことが、マイナスだとは全く思わなかった。

合唱コンクールのことも触れられていたが、大規模校では、全校が出られるわけではなく、出られるクラスの子供だけが出ることになり、ピアノを弾きたい子でも、選抜があり、一生懸命練習した子でも必ず出られる訳ではないという非常に厳しい状況である。

本埜中学校では、全校で一生懸命練習して、全員で出ることができるので、それはそれで、良かったと思う。

実際には、歌声の差は出てしまうと思うので、色々な規模の学校が出場する中で、市として、基準や開催方法などを工夫して、もう少し違う基準で見えていただいても良いのではないかと感じた。

団体割引のことも話していたが、団体割引はあればうれしいが、必要としていないし、それ以上に子供達が経験できることが非常に多いと思う。

本埜中学校に通わせていて、子供達が少ない中で、例えば、大きい学校を一生懸命掃除する姿は心を打たれるし、そういうみんなのためにみんなで頑張ることができる人は、社会に出た時に大切にされると思う。

大規模校の子供達は、掃除はしておらず、校内は汚いと言っていた。

小規模校は、人数が少ないので、気が合わない子がいることもあると思うが、その中で、うまくやっていくことを、子供達は身に付けており、社会に出た時に大きな強みになると考えているので、ぜひ小規模校も大切にしていきたいと思う。

質問 小規模特認校制度について、様々な形でアピールしていただいたことはありがたいと思うが、制度を周知しても、あまり響かなかったということだと思うので、やり方をもう少し考えるべきであるし、実際に、見学に来られた人でも、入学しなかった人も聞いてるので、なぜ入学しなかったのか聞いてみて、どんな課題があるか把握し、課題を解決していただくことも大事であると思う。

実際に、どのような理由で、入学しなかったのかを把握しているのであれば、教えてほしい。

回答 学校見学をした後に、実際には利用しなかった方が、利用しなかった理由については、そのご家庭の判断になるため、聞いていない。

質問 小規模特認校で、成功した例もあると思うので、その辺も教えていただきと思う。

回答 例えば、地域の特性を生かした学校ということで、地域の方が主体となって、農業や酪農関係の特色を出している学校があった。

- 質問** 例えば、本埜中学校でも、農業や林業などに子供達を触れられることを学校としてやっていきたいというふうになった場合に、市として、補助金などの資金援助をする考えはあるか。
- 回答** 基本的に、公立の学校の場合は、全国のどこの学校でも、一定の教育水準が確保されることによって、教育の機会が均等であるということが保障されなければならないと考えているため、学校が持っている特徴を生かした教育活動を行うことは可能であると考えているが、学校のプログラムとして、本埜中学校だけ、他校にないことを実施することは難しいと考えている。
- 補助金については、要望があった場合には、検討したいとは思いますが、この場で、補助金を出すということは、お約束できない。
- 質問** 本埜中学校に見学をしたが、入学しなかった人について、何年生が何人来たのか、教えてほしい。
- 回答** 手元に資料がないため、お答えができない。
- 追加回答** 令和4年度の学年で、小学校6年生が1人、中学校1年生が1人です。
- 質問** 本埜小学校の子供のために、進学先として、滝野中学校、小林中学校、印旛中学校を自由に選択できることになっていたと思うが、それについては、この先も継続していくということによってよいのか。
- 回答** 本埜中学校の学校適正配置シミュレーションとして、本埜中学校を滝野中学校と統合した場合には、隣接する小林中学校及び印旛中学校への通学区域制度の弾力的な運用を行い、柔軟に学区外就学を認めることを提案していたが、実際には、統合をしていないため、現時点では、自由に学校を選択することはできないため、他の学校に行きたい場合には、個別に学区外就学の相談をしていただき、可否を決定しているところである。
- 質問** 現在、他の中学校に行っている人の大部分は、部活動を理由に学区外就学をしているということによってよいのか。
- 回答** 学区外就学の理由としては、部活動が多い状況となっているが、それ以外にも、個別の理由があるため、全員が部活動を理由に学区外就学をしているものではない。
- 質問** 個別の理由とは、具体的にどういったことがあるのか。
- 回答** 学区外就学の許可基準の一つとしては、学期や学年の中途転出によるものがあり、小学6年生、中学3年生の最終学年であれば、学年末まで、その他の学年については、学期末まで許可することができることになっており、その他の許可基準としては、いじめ等に関するものがあり、学校において十分な指導が行われているにもかかわらず、児童生徒の心身の安全が脅かされる場合などがある。
- 質問** 現在、本埜中学校の部活動は陸上と野球と生物になるが、その他の部活動について、子供達が希望する部活動を作ってもらえることはできるのか。
- 回答** 新しい部活動を作る場合には、顧問が必要となるため、入部を希望する生徒と顧問がいれば、新しい部活動を作ることはできると考えているが、実際にできるかどうかについては、学校に確認する必要があると考えている。
- 意見** 今、バドミントンの人気があり、他の中学校のバドミントン部に入部している子供の保護者から、本埜中学校にバドミントン部があれば、本埜中学校に入学していたという話も聞いているため、小規模特認校をやっても、なかなか人数が集まらないということなので、他の学校

でも人気のある部活動が本埜中学校にもあると良いと思う。

意見 本埜小学校、本埜中学校は人数が少ないが、そのおかげで、何でも自分でやらなくてはいけない状況となり、やりたくなくても行事には全部参加しなくてはいけないため、保護者から見れば、結果的に全ての行事に子供達に参加できるという良さがあるということで、本埜小学校や本埜中学校に通わせている保護者がいるということをご理解いただきたいと思う。

質問 小規模特認校制度は全国であまりやっていないことだと思うため、今後、過疎化で同じように小規模特認校を導入したい市町村が必ずあると思う。

今後のために、現在は、見学に来た人が辞めてしまった理由を聞いていないということだが、理由を聞いてもらうことはできないか。

回答 小規模特認校制度については、特段の理由がなくても、利用することができる制度であるため、理由を聞いても教えてもらえないことがあるかもしれないが、参考のために、理由を聞くことは可能であると考えます。

意見 我々は、本埜中学校を存続させていきたいという思いがあるが、正直、どうすれば、小規模特認校制度を広く知ってもらえるのか、わからないため、教育委員会でも、色々な情報を集めていただければと思う。

質問 部活動の理由があれば、他の中学校に行けるということだが、具体的に、どういう場合に許可されるのか。

回答 指定された中学校に希望する部活動がない場合である。

質問 現状、色々な運動部で、他の中学校と合同チームを組んで、公式戦に出ている部活動があると思うが、例えば、本埜中学校と滝野中学校の合同のバドミントン部を作ることができるのか。

回答 合同チームについては、双方の学校に顧問が必要であるため、顧問の確保の問題があり、顧問がいれば、大会に出るために、人数が足りないのであれば、合同チームで大会に出ることは可能であると思うが、顧問の確保が難しい状況となっている。

質問 現状で、本埜中学校の野球部が、合同チームで活動しているのは、ご存知か。

回答 はい。

質問 滝野中学校の体育館で活動している部活動は、こういった部活動があって、その部活動が週に何回体育館を使用しているのか、教えてほしい。

それによって、例えば、体育館で活動できない時には、ふれあいバス等で本埜中学校に来てもらって、練習をしてもらうことができる可能性もあると思うので、今、分らなければ、後日、情報提供をしていただきたいと思う。

回答 手元に資料がないため、お答えができない。

追加回答 滝野中学校の体育館で活動している部活動については、バスケットボール部（男女）、バドミントン部（男女）となっており、平日の放課後の滝野中学校の体育館は、それぞれの部活動で調整を行い、利用できるのは週2、3回となりますが、それ以外については、校庭や滝野小学校の体育館を利用して、基本的には、毎日活動ができているとのことです。

平日の放課後に、滝野中学校の生徒が本埜中学校の体育館で部活動の練習をすることについては、移動手段や下校時間等を考慮すると、現実的ではないと考えています。

質問 本埜中学校には学区外就学をしており、今は送迎をしているが、時間が合えば、ふれあいバスを使って、通うこともある。

知り合いのお母さんから、本埜中学校に通いたいと思っている人もいると聞いていて、通学手段がないことで諦めたということも聞いている。

送迎をしなくてはいけないとなると、仕事をしている人は難しいと思うし、ふれあいバスを使うということも考えられるが、本数が少ないということが大きな問題である。

朝は始業の時間に間に合わないため、遅れて登校していることもあるし、帰りも、大体4時頃に下校となるが、印西牧の原駅へのルートは、4時台がないため、印旛日本医大駅へのルートを使って、印旛日本医大駅まで行き、電車で帰ってくるということもある。

ふれあいバスを使えることを知らないで、通学手段がなく諦めている人が多いと思う。

一番スクールバスが出ると良いと思うが、それが難しいようであれば、登下校の時間に、ふれあいバスの本数が増えると良いと思うが、そういった通学に対する支援の考えはあるか。

回答 市内の小中学校の中には、指定校までの通学距離が遠距離であったり、交通量の多い歩道のない道路を通学している児童がいる学校もあるため、現在、全市的な指定校へのスクールバスについて、検討を行っているところである。

意見 部活動のことについて、うちの子供は運動が苦手だったため、先生が考えて、生物部を作っていた。

本人は、喜んで生物部に入部して、先輩も現在は引退してしまったが、2人入って、3人で活動していた。

それぞれ、興味がある植物や昆虫などを調べて、標本を提出して賞をもらったりもしたので、生物部を作っていたら、すごく良かったと思っている。

希望をすれば、部活動を作ることもできるのではないかなと思った。

意見 大規模校の場合、授業参観に行っても、自由に立ち歩いて、外に出て行ってしまったり、荷物も置く場所がなく、すごく狭い状態であったり、教室に壁のない学校では、他のクラスの声が聞こえて、集中できない環境であり、学級崩壊をしているのではないかなと思うようなことがあった。

人数が多いと楽しそうで、切磋琢磨してすごく良い環境と感ずるかもしれないが、実際に見てみると、先生もすごく大変に思えて、保護者会でも、とにかく収拾がつかない状態であるという話を聞いたりしていたので、環境はすごく良くないと感じていた。

質問 不登校の子供の人数がどの位いるか、教えてほしい。

回答 手元に資料がないため、お答えができない。

追加回答 令和4年12月31日現在で、不登校の児童生徒の人数については、小学校で86人、中学校で129人となっています。

意見 ニュースなどで、全国的に不登校の児童が増えていると聞いているので、印西市にも結構な人数がいるのではないかなと思っているが、うちの子も大人数の学校が合わずに転校することになったので、大人数の学校が合わない子や環境を変えたい子で、小規模校で学習したいと思っている子は多くいると思う。

子供は、こちらの学校に来てから、嫌がらずに毎日登校しているので、とても感謝している。

大規模校で、いじめの問題などを聞くが、クラスが2クラス以上あった方が良いというのは、いじめのために、クラス替えができる2クラス以上あった方が良く聞くと聞くと、小規模校に来て

みて、先生の目が行き届いている感じがあり、陰湿ないじめはないと思うため、必ず、2クラス必要というわけではないのではないかなと感じた。

生徒の人数がもう少し増えた方が行事等でも楽しめるところはあると思うが、必ずしも、小規模が悪い環境ではないということは知っておいていただきたいと思う。

補足事項 学年で2学級以上あった方が**良い理由は、教育指導面や学校運営面でメリットが大きい**ためであり、いじめがあった時に対応しやすいからということではありません。

質問 学区外就学の条件について、条件を無くすことはできないのか。

小規模校が良いという意見があることはわかるが、小規模校が嫌だという人もいると思うので、隣接する中学校へ自由に選択できる制度を検討していただきたいと思う。

回答 現時点では、学校の自由選択制を行う考えはない。

お子様の特性や状況があるため、個別にご相談いただき、可否を判断させていただきたいと考えている。

質問 本日の説明会の趣旨については、説明ということだが、言葉の端々に厳しいという発言があり、我々が一番懸念していることは、小規模特認校を導入するということは、小規模のメリットを認めていただき、小規模校の存続が認められているという認識でいるが、厳しいという言葉の裏には、実際に何人の状態が何年続いたら、なくなってしまうかもしれないなどという考えが、頭の中にあると感じるので、その基準があれば、この場で明確にさせていただきたい。

回答 実際に、2学級になった場合に、養護教諭と事務職員が配置されなくなってしまう状況になると、学校運営の中で何かあった時に、例えば、養護教諭がいないと、けがの対応等ができなくなってしまう状況が考えられるため、養護教諭と事務職員の配置ができなくなってしまう場合と考えている。

質問 一定の人数が減ったからなくなるという基準はないということをお答えいただいたということで、一定の基準を下回ると、先生が減ってしまう懸念があり、そうすると子供にデメリットがあるから、学校の存続が危うくなるという認識でよろしいか。

回答 はい。

意見 コロナ前に、色々と説明会を開催していただいたときに、何度か質問をさせていただいたが、その回答が返ってきていない状況ではあるが、まず、生徒が減っている状況の中、将来本塾中学校がなくなってしまうかもしれないということが、そそのかされてしまうと、保護者として、途中でなくなってしまう本塾中学校に行かせられないといった懸念が働くから行かせないというようなことになり、そのような方向に仕向けられている感覚が我々にはある。

2年前の説明会でも、他の保護者の方が言っていたので、皆さんの共通認識だと思うが、明確に本塾中学校はなくなるということを宣言していただくことで、保護者は安心できるし、その結果、生徒が増えると思う。

意見 以前の説明会で他の保護者の方が言っていたが、学区外から本塾小学校、本塾中学校に来ようとしたが、学務課に相談したら、断られたと言っていた保護者の方がおり、教育委員会から、それについて内部調査をするという発言があったが、その結果が我々に共有されておらず、調べられているのか、わからないため、そういった水面下での動きでも、我々が見えないところで、生徒数が減っている一因になっている原因があるのではないかなと思う。

その辺りを、きちんと表に出していただいて、今回、小規模特認校を導入していくのであれ

ば、印西市の教育委員会をあげて、本埜中学校の生徒数が増えるように盛り上げていただきたいというのが要望である。

意見 教育委員会では、大人数の中、部活動ができる、生徒がみんなで合唱できるということがメリットだと考えているようだが、実際には、原小学校のように大規模すぎて、困っている方もいると思う。

そういった中で、困っている人を、本埜中学校に誘導していただきたいと思う。

それで、印西市をあげて、しっかりと先生が確保できる生徒数を確保していただき、印西市の小規模特認校を、他の市町村や自治体にアピールできるようにしっかりとした体制にしていただきたいというのが、要望である。

意見 合唱ができるとか、大人数が集まれるということは、大規模校のメリットであって、小規模特認校である我々にとっては、元々無いものだと思っている。

人数が多ければ、きめ細かい教育ができず、人数が少ないから、きめ細かい教育ができるのであって、両方良いことはない。

大規模校を求められる方は、大規模校に行けばいいと思うが、私の子供の同級生は、ほとんど他の学区に行っているので、出ることはフリーパスである。

入ってくることに対しては、怪しい動きがあったみたいだが、出ることに対しては、実際に、子供の周りの人は出て行っている人が多いので、特に、教育委員会では、出て行かないでくれという動きはしていないと認識している。

大規模校で得られないメリットを我々は求めてきているので、大規模校のメリットがないから存続が厳しいという理屈は、元々ピントがずれていると感じるため、そこは調整していただきたいと思う。

意見 そもそも人数が多いということが子供にとって一番良いというのは、誰が決めたことなのか。本埜地区の子供に聞いていることなのか。

子供にとって何が良いのかは、子供にとって、それぞれ違うと思う。

それを画一的に子供の価値を決めて、大規模校に通うことのメリットの方が優れているというような、全体で一つが正しいというような考えは、今の時代に合わないと思うので、根底をまず議論し直していただきたいと思う。

特に、コロナになって、ニューノーマルの世の中になって、世の中の価値観が変わってきている。

実際に、大規模校では、半分通学、半分家庭学習など、大規模にならないように、この2年間、やってきている。

世の中はリモートになったり、ビジネスの世界でも、今までは、お客様の所に駆けつけて、直接会うというのが、メリットだったが、コロナになってからは、直接来るとは何を考えているのかということと言われたりすることもあり、価値観が変わってきていると思う。

大規模校が本当に優れているかというところのメリット、デメリットについて、実際に考え直していただき、適正配置を考える上でも、根底として議論をし直していただきたいと思う。

意見 大規模すぎる原小学校や牧の原小学校では、増築したのに、また増築をしているようなこともあるし、例えば、草深小学校は、将来人が減るだろうということで無くしてしまったが、今は無くさない方が良かったと思っている人が多いと思う。

予測は当たらないということである。

印西市にはデータセンターがいっぱい出来て、世界の印西とか言われているこの状況で、

予測よりももっと人口が増えるかもしれないし、本埜地区の人口も増えるかもしれないというような想像力を働かせて、色々なケースを想定して、適正配置を考えていただきたいと思う。

人口が減った場合と、維持した場合と、増えた場合など、色々なケースを想定して、どうした場合でも対応できるように、色々プランを立てたらいかかが。

学校適正配置審議会の議事録を拝見させていただいたが、学校を新築するにも、土地の交渉や取得で何年もかかるため、できないなどの議論をしているようだが、何年も経ってしまったら、小学1年生で困っていたとしても、卒業してしまう。

将来に向けて、この印西市の人口がどのように増えるのか、子供が増えるのかを考えていただきたいし、今の原小学校の子供達も増えすぎて、トイレにもいけないとか、色々な問題があり、困っている状態がずっと続いているという声を耳にするので、全体として、そもそも子供にとって何が良いのかということと、印西市全体の発展にかけて、教育がどうあるべきなのか、子供にとって質の高い教育は何なのかということをしっかり定義し直していただきたいと思う。

意見 本埜中学校に関して、実際に小規模特認校ということが認められているので、しっかりとそのスタイルが他にも展開できるように、印西市教育委員会をあげて、生徒数を増やして盛り上げていただきたいというのが要望である。

意見 適正配置審議会への要望だが、今までの資料を見せていただいたが、人数やクラス数については書いてあるが、その他に、児童生徒一人当たりの校舎の面積や運動場の面積、教職員一人当たりの児童生徒数なども、資料として付け加えていただきたいと思う。

そういう資料を見て、自分の子供が学校で過ごす姿などの想像力がわいてくるとし、設置基準があるため、資料を作ることは難しいことではないと思う。

意見 2年前の説明会で、色々質問したことに対して、回答がなかったと認識している。先程私が申し上げたことは要望ではあるが、教育委員会のアクション項目が多分に含まれているので、実際、これは私の要望であり、やっていただくことだと思っている。

例えば、できないにしても、こういう理由でできないとか、できることについては、ここまでであればできるとか、そういったことも、しっかりと回答いただきたいし、実際に、本埜中学校の存続に関わる問題については、その都度、しっかりとつまびらかに保護者に共有をしていただいて、保護者が知らないうちに勝手に進むということがないようにしていただきたいと思うし、意見として承りまただけで済ませられると困ってしまうため、しっかりと回答をいただきたいと思う。

これは対話だと思っているので、存続に関わることで、例えば、一定の水準を下回りそうなときに、何とかしなければならない場合には、保護者も協力できることがあれば、協力していきたいと思うため、そういう場合には、連携してやっていけることが、多々あると思うので、アラートを出していただき、しっかりと共有をしながら、一緒に歩を進めていく体制をとっていただきたいと思う。

質問 今日この場に来ている保護者の半分以上が、6年生の子供を持つ保護者になる。親としては、この学校に入学したら、ちゃんと卒業できるのかということが、一番心配なところなので、きちんと卒業できるということをこの場でしっかりと教えていただきたい。来年の4月に入学になるが、この12月の土壇場で、こういった保護者説明会が行われるということは、よくよく本埜中学校は危ないと正直誰もが思っている。

最初に、教育委員会から閉校の考えはないという言葉をいただいたので、安心はしているが、改めて、3年間この学校で学んで、卒業できるということをこの場で教えていただきたい。

回答 今後、全校で、特別支援学級を含めて、2学級になると、養護教諭と事務職員が配置されなくなり、学校を存続していくのが、非常に厳しい状況になるのが現実だと思うため、現時点では、本埜中学校での卒業をお約束することはできない。

質問 来年の12月に、今年度で本埜中学校を閉校させていただきたいというような話になる可能性もあるということか。

回答 教育委員会として一方的な話というわけではなく、教育指導面や学校運営面等を考慮すると、学校の存続がかなり厳しい状況になるということはお伝えしているとおりであり、学校の統合について、今後も、保護者の皆様と意見交換を行っていきたいと考えている。

質問 卒業を約束できないという話だが、教職員が減ってしまうレベルというのは、何人を割って、それが何年続く状況なのか、条件を教えてください。

回答 全校で、特別支援学級を含めて、2学級になるということである。

質問 1学級の人数は、最小で何人と考えているのか。

回答 中学校の場合、2つの学年を合わせて、8人以下になると2学級分が1学級の複式学級になるため、そういった状況で、全体として、2学級になった場合には、教員の配置ができなくなってしまう。

質問 色々なケースが考えられると思うが、人数で、一番少ない存続ラインは何人か。

回答 令和6年度で考えると、例えば、現在の1年生が通常学級で6人なので、その人数が変わらないと想定すると、新入生が2人だと、複式学級になってしまうが、3人以上だと、複式学級にはならず、通常学級が1年生と2年生で各1学級、特別支援学級が1学級、合計で3学級になるため、教員は配置されることになる。

質問 資料の今後の生徒数の推移を見ると、生徒数が増えているため、3年後も存続することを断言できるのではないのか。

回答 資料の今後の生徒数の推移については、学区外就学や私立学校等への就学を考慮していない人数のため、この人数が確約されるものではない。

質問 大規模校に合わない生徒などがいると思うため、しっかりと個別の悩みを聞き出したりして、小規模特認校に誘導していただいて、しっかりと生徒数、学級数が保たれるように努力していただきたいと思う。

自然に生徒が減ってしまったから学校がなくなるかもしれないということではなく、しっかりと生徒数が増えるような動きをしていただくことをお願いしたいと思うが、それはやっていただけなのか。

回答 小規模特認校制度への誘導については、小規模特認校制度は特段の理由がなくても利用ができるものになるため、周知をすることについては努めてまいりたいと考えているが、強制や誘導はできない。

意見 誘導はやらなくていいが、検討されている方には、選択肢の一つとして、しっかりと提示をいただきたいと思う。

質問 外から入ろうとしている人に対して、断られたということについて、明確な答えをいただいているので、そういったところをしっかりと対応していただき、外から入ろうと明確な意思を示している人については、入れていただき、検討されている人には選択肢の一つとして、提示をするという活動をしていただきたいと思います。

回答 以前の説明会において、学区外就学を断られたという件について、その時点で、調査をさせていただき、説明会において発言された方に直接お話をお伺いしたところ、説明会で本埜地区の学校への学区外就学を断られた友人を知っているという発言をしたが、実際には、そういう事実はなく、本埜中学校を存続させてほしいとの気持ちから無責任に発言してしまったというお話があった。

教育委員会内でも、そういう事例がないか調査したが、学区外就学については、いずれの案件についても、個別の事情等を聞いた上で、適切に可否を判断していることを確認しているところである。

また、小規模特認校制度については、特段の理由がなくても、利用することができるため、教育委員会で断ることはせず、学校見学をしていただいた上で、最終的に保護者の方が利用するか判断しているところである。

質問 危険水域とか危ない状況になりそうであれば、アラートを鳴らしていただきたいということをお願いしたい。

来年の12月に突然集められて、来年の4月に統合というような話をされても、我々は全く動くこともできず、本当に悔しい思いをすることになるため、そういうことは絶対にしないと信じているが、数年先を見据えて、しっかりと本埜中学校が存続できるように、小規模特認校としての存在感を出して、子供にとって質の高い教育を提示できるように、教育委員会と生徒と親と一緒に歩を進めていくべきだと思うため、その連携をしっかりとっていただけるということをこの場で約束していただきたいと思う。

回答 ご懸念されているようなことは決してなく、教育委員会としては、小規模特認校制度を導入するため、一生懸命努力して、アピールしていきたいと考えている。

【問い合わせ先】

印西市教育委員会 教育部学務課

学校適正配置推進係 電話：0476-33-4704（学務課直通）

